

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F127110107852
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	物質科学国内研修1
	学部・研究科等名	国際共創大学院学位プログラム推進機構 博士課程教育リーディングプログラム 「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」
	担当教職員名・役職	飯島賢二・特任教授
	受講者数実績年度	令和4年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	18
	受入企業等数	12
	受入企業等名	(株)メルカリ、日東電工(株)、オムロン(株)、NTT(株)、パナソニック(株)、トヨタ自動車(株)、(株)Qunasy、住友化学(株)、日本製鉄(株)、(株)東京大学エッジキャピタルパートナーズ、第一三共(株)、(株)シグマアイ、
	産学協議会の整理上の類型	4.タイプ3(専門活用型インターンシップ)
	キャリア形成支援活動の分類	1.長期(概ね1か月以上)のキャリア形成支援活動 8.博士後期課程学生を対象としたキャリア形成支援活動
上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	企業の研究現場で技術開発に実際に従事、科学技術が実際に活用されるために必要となる視点の獲得、チームやグループで仕事を進めるために求められるスキルへの気付き、さらには大学院終了後の自己のやりがいの発見も含めて、社会人として求められるコミュニケーション力、柔軟性、複眼的思考力の獲得を目指している。事前の計画と目標設定、取組中には職場の上司による目標到達に向けた指導と評価、事後には報告書の提出と報告会とメンター教員によるフォローを実施している
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	4.当該キャリア形成支援活動は、必修科目として実施している 7.当該キャリア形成支援活動は、授業期間中に実施している 2.当該キャリア形成支援活動は、キャリア教育科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学院 博士1年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学院 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	本プログラムでは修士課程の間に、大学内の異分野研究室での3ヵ月滞在を科目として複眼的視点や俯瞰力を育成、博士課程1年次に学外の企業にて社会とのつながりを経験する中で自己のキャリアプラン形成を支援する。

項目	確認事項	届出内容
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップ等の就業体験の成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	週報の形で報告を受けてアドバイス等をフィードバック
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	情報セキュリティに関する意識徹底と、報連相の重要性について実例を含めて指導
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	学生と企業担当者間で取り決めた、インターン期間中に学ぶ事(10項目程度)について、期初、期中、終了時に評価を行い、コメントを交換する。インターンで学んだ事、今後の活動活かした気付きを中心にまとめた報告書の提出と、5名程度の教員が参加する報告会での報告と教員からのフィードバック。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	毎週月曜日に業務推進や上司からの指導、周囲の技術者との交流を通して得られた気付きや業務の進め方等を週報として報告。その内容についてアドバイスやコメントを返却。
	要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。
4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み		1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み		
4-3.上記回答内容に関する詳細		事前にはインターンで学びたい項目を考える評価表、研修中は週報、研修後は研修報告、報告会にて気付きや考え方の再確認を行う。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	連続した45日以上90日までの期間
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	インターン企業において、職場の1員として業務を分担、指導を受けながら業務推進を行う。

項目	確認事項	届出内容
要素 ⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	インターン開始時に、企業担当者と相談し、期間中に学ぶべきこと、伸ばしたい能力等の項目(10項目程度)を決定、期初、期中、事後の成長を5段階で評価、コメントを相互に交換する。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?flowId=SYW4201600-flow&amp;locale=ja_JP">https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?flowId=SYW4201600-flow&amp;locale=ja_JP</a>
問 い 合 わ せ 先	大学等名	大阪大学
	担当部署名	国際共創大学院学位プログラム推進機構 インタラクティブ物質科学・カデットプログラム
	担当者役職名	特任教授
	担当者氏名	飯島賢二
	電話番号	06-6850-6474
	メールアドレス	<a href="mailto:e-ijima@msc.osaka-u.ac.jp">e-ijima@msc.osaka-u.ac.jp</a>